さまざまなジャンルの力作ずらり

都城市美術展を9月16日から10月1日まで、市立美術館で開催しました。立体と平面の2部門に、市内外から247人が出品。自由な発想でそれぞれのテーマを独自の観点で表現した絵画や書、写真、彫刻などの作品を展示しました。9月23日の表彰式では、入賞者24人を表彰。昨年訪れた台湾で撮影した写真を元に描いた作品「ビバ・タイペイ」で大賞を受賞した今村峰子さん（三股町）は「20年ほど前から出品している。初めて大賞を受賞できてうれしい」と喜びをかみしめていました。

都城市美術展

日本一の宮崎牛をいざ、台湾へ

台湾が日本産牛肉の輸入を16年ぶりに解禁したことを受け9月27日、㈱ミヤチク高崎工場で宮崎牛台湾輸出出発式が開催されました。全国和牛能力共進会で3回連続内閣総理大臣賞を受賞するなど、品質・おいしさともにお墨付きの宮崎牛。台湾で宮崎牛を扱う乾杯グループ王斯楷（ワンスーカイ）代表は「台湾の観光客が日本で食べた和牛を台湾では食べられなかったが、輸入解禁で、和牛を食べたいという需要が高まっている」と話しました。今後、㈱ミヤチクは台湾へ月3トンの輸出を計画しています。

宮崎牛台湾輸出出発式

笑顔の花が咲いた交流会

心の病を持つ人や精神に障がいのある人と、地域の人たちの触れ合いを通して、互いの理解を深めるふれあいニュースポーツ大会が9月30日、勤労者体育センター（姫城町）で開催されました。都城北諸地域精神保健福祉協議会が企画し、大会運営を補助する都城市レクリエーション協議会の会員や、都城西高校と都城看護専門学校の学生ボランティアなどを含む約120人が参加。参加者らはミニボウリングや風船バレー、複数人での卓球などで汗を流しながら、交流を深めていました。

ふれあいニュースポーツ大会

地域を支える募金活動始まる

毎年、全国一斉に始まる赤い羽根共同募金の出発式が10月2日、ウエルネス交流プラザで行われました。会場では都城市社会福祉協議会の新キャラクター幸子（さちこ）ちゃんとぼんちくんが、高校生らと共に募金活動への協力を呼び掛けました。今年度の活動は「地域の福祉、みんなで参加」をスローガンに、12月31日㈰まで実施されます。昨年度は歳末たすけあい募金を含め、約2,566万円の募金が寄せられ、地域の課題解決のために、市内85団体に対して 約1,346万円が活用されました。

赤い羽根共同募金出発式

青空の下で楽しむ日本一の焼肉

恒例となった都城焼肉カーニバルが10月7日、観音池公園で開催されました。市内外から約5万人が訪れ盛況となった同イベント。来場者らは、さまざまな出し物を楽しみながら日本一の「肉と焼酎のふるさと・都城」の牛肉・豚肉・鶏肉と焼酎などを堪能していました。日高千絵さん（三股町）は「昨年参加できなかったので楽しみにしていた。会場の熱気を楽しみながら、多くの人と楽しむ焼肉は格別」と満喫していました。焼肉終了後には、1万発を超える花火が、秋の夜空を華やかに色どりました。

2017都城焼肉カーニバル

みんなに教えたい！ 都城の景色

都城市景観図画コンクールの表彰式を10月7日、イオンモール都城駅前で開催しました。ふるさとの自然やまちなみなど、子どもたちの景観に対する意識や関心を高める目的で毎年開催するこのコンクール。市内の小中学生793人から応募があり、入賞者30人を表彰しました。歴史資料館の門を丁寧に描いて、小学校高学年の部の特選に輝いた山川瑶貴（たまき）さん（西小5年）は「受賞できてとてもうれしい。絵を描いてみると、あらためて都城の景色がとてもきれいだと感じた」と笑顔で話していました。

都城市景観図画コンクール表彰式

日本晴れの空の下でハッスル

高崎体育祭が10月8日、高崎総合公園陸上競技場で開催されました。「みんなで参加・あらたな挑戦・きばっど！高崎」をスローガンに、幼児から高齢者まで約3千人が参加した今大会。澄み渡る秋空の下、全員で「みやこんじょ弁ラジオ体操第1」をした後、6つの地域に分かれ、徒競走やリレーなどに挑んで汗を流しました。地域対抗綱引きが始まると、あらん限りの力で綱を引き合う選手らに、会場は大盛り上がり。世代を超えて一丸となったことで、負けたチームにも笑顔が溢れていました。

第33回高崎体育祭

投票することが大事

報道番組や執筆などで活躍するジャーナリストの池上彰さんと増田ユリヤさんのトークショーを10月9日、総合文化ホールで開催しました。市選挙管理委員会が「これであなたも選挙に行きたくなる」をテーマに企画。二人の軽快な語りと分かりやすい解説に、今回の衆議院議員総選挙で初めて投票権を得た18歳の高校生をはじめとする約900人が、耳を傾けました。池上さんは「初めから結果ありきだと、さまざまなことが見えなくなる。自分の意見をしっかり持つことが大事」と話しました。

池上彰・増田ユリヤトークショー

実りの秋、収穫初体験！

毎年11月初旬までキウイ狩りが楽しめる、関之尾緑の村観光農園が10月11日、オープンしました。同園はオープンに先駆けて、清涼幼稚園の園児30人を招待。「今年のキウイは少し小粒だが、量は多く、甘ずっぱくておいしい」と同農園の谷口三義さん。園児たちは、より大きいキウイを探しては、背伸びをしながら友だちと楽しそうに収穫していました。児玉未来さん（丸野町）は「キウイを初めて採った。家族みんなで食べるのがとても楽しみ」とうれしそうに話していました。

関之尾緑の村観光農園キウイ狩り

真心込めて、ピカピカに

都城地区清掃業協会によるガラスクリーニングが10月12日、有水保育所と高城保育所で開催されました。同協会が毎年ボランティアで、保育所や福祉作業所などの施設の窓ガラスなどを清掃するこの取り組み。12年目を迎える今年は8社から30人が参加し、施設の全ての窓ガラスをピカピカに磨き上げました。大田陽三会長は「地域に恩返しをしたいという気持ちで取り組みを続けている。きれいで明るくなった施設で、子どもたちが楽しく遊んでくれたらうれしい」と活動への思いを話しました。

清掃業協会ボランティア

人の風景

smiling faces of miyakonojo

第11回全国和牛能力共進会
肉牛の部・内閣総理大臣賞受賞

薬師 憲一さん
（高崎町縄瀬）

9月7日から11日にかけて、宮城県仙台市で開催された全国和牛能力共進会（全共）肉牛の部・第8区で、薬師憲一さんの出品した「満点明彰（まんてんめいしょう）」号が、同区の優等首席と内閣総理大臣賞を受賞しました。

実家が畜産を営んでいたこともあり、子どもの頃から畜産農家になることを決めていた薬師さん。高校卒業後に、県立農業大学校に進学しました。同校で畜産の知識を深めて実家に戻り就農した薬師さんは、10年前に全共に初めて挑戦。この時は残念ながら全国大会に進むことはできず「いろいろ考え過ぎて取り組んでしまい、力不足を感じた」と当時を振り返ります。以降、毎日牛と向き合い、餌の配合を改良するなど試行錯誤しながら、経験を積み着実に飼育技術を高めてきました。そして、今年7月に小林市で開催された県代表牛決定検査で、見事全共出場を勝ち取りました。

本市から唯一の出品者となった薬師さん。初めての全共出場を「県代表に選ばれたことはうれしかったが、周りの期待が大きく不安もあった」と話します。全国大会までは暑い夏を乗り切らなければならず「牛の食欲が落ちないように餌のやり方に気を配った」と体調管理に万全を期しました。また、宮崎で畜産に携わる人たちが、県勢3連覇に向けて一丸となって臨んだ今大会。「入念なリハーサルや、長距離を移動するため、餌箱や水槽の配慮など、周りのサポートも心強かった」と話します。

過去最多となる39道府県から513頭が出品した今大会。性別や年齢などで区分された9部門のうち、薬師さんは小林市の出品者とともに、同じ種雄牛を父親に持つ子3頭の肉質を評価する第8区に出品しました。「会場は溢れんばかりの人で、熱気もすごかった。地元からの応援がとても心強かった」と話す薬師さん。見事第8区の優等首席、そして肉牛の部で日本一となる内閣総理大臣賞を獲得しました。「プレッシャーもあったが、期待に応えられてうれしかった」と受賞の喜びを話します。

「全共を目指すことは、技術の向上にもつながることなので、若い人たちにもがんばってほしい」と後進へエールを送ります。「自分たちの育てた牛をおいしいと言ってもらえることが一番うれしい。これからも皆さんに喜んでもらえるようにがんばりたい」と意気込みを話していました。

積み重ねた努力が
実を結んだ「日本一」